

神戸学院大学 第2次中期行動計画 中期計画(第3層) 2019年度達成度評価表 分野:学生支援

中期目標		評価	理由
学生の成長を支える総合的な学生支援を実施します。			
中期計画	1 学生生活支援の充実	B	学生の健康管理について、定期健康診断受診率が90%となり、目標値(受診率91%)をやや下回る結果となったことは対策の余地がある。医務室、学生相談室および学生支援事務室の連携体制を強固にし、更なる充実を期待する。学生相互が支え合う学修支援体制(ピア・サポート制)については、KPCでも負担がなく実施ができるよう部署間での協力体制が必要である。
	2 修学支援の充実	C	「ライティング何でも相談室」といった正課外での学修支援体制については一定の成果が確認できており評価できる。一方で、eラーニングシステムによる補講や図書館内における飲食可能な休息室の設置といった取り組みについては、検証が不十分であったり、予算面での理由で目標が達成できていない。学生が必要としている修学支援とは何か、学生の要望をきちんと把握したうえで、対応を検討する必要がある。
	3 安全で快適なキャンパス環境の充実	B	大規模災害に備え継続して訓練を実施していることは評価できる。また、学生アンケートの結果等の学生からの意見に基づき、トイレの洋式化や車いす利用者トイレの設置、KPC1のコンビニの設置等の整備を実現している点は評価できる。学生証のIC化については、他大学の事例を調査する等が行われているものの、昨年度からの進展はあまり見られない。喫煙マナーや危機管理意識の啓発といった計画については、評価方法について課題が残っている。
	4 障がいのある学生への支援	B	「障がい学生支援体制整備ワーキンググループ」が設置され、種々検討が進み、年度末までに答申がまとめられることは評価に値する。また各学部単位での取り組みについては関係部署との連携が不可欠であるため、学生支援センターや教務センター等とも情報共有を行いながら進めていくことが求められる。次年度以降、支援体制の本格始動に期待する。
	5 課外活動の奨励と支援	B	2つの計画が2019年度で完了となっているが、支援体制の構築など引き続き検討が必要ではないかと考えられるものも少なくない。また広報活動の充実についてはまだ改善の余地があるが、支援金制度の見直し等少しずつ検証と改善が進んでいる計画もあり、一定レベルでの進捗は評価できる。
	6 キャリア支援の強化	B	キャリアセンターを中心とした全学的なキャリア支援については、概ね目標どおりであり、一定の成果も上がっている。各学部における学部独自のキャリア支援については、進捗が見られない学部もあるため、改善が必要である。

評価 S: 目標よりはるかに上回る、A: 目標をやや上回る、B: おおむね目標どおり、C: 目標をやや下回る、D: 目標をかなり下回る